



# 子育てチャンネル

## 白風夢

### 自然の摂理に従って生きる

風にあおられて木の葉がぱらり、はじりと落ちてくる。次の年の自分の滋養のために。人は実りの秋とばかりにトウキビ、イモ、カボチャ、りんご、梨、ぶどうなど、天高く馬肥ゆるとばかり体に栄養を貯え、越冬に備える。また漬物を作り、土や室にいろいろの野菜を保存し越冬の準備に余念がない。やがての冬の訪れ、温かい衣に身を包み家の中でひたすら春を待つ。待ちに待った春。草が萌え、葉が繁り、緑が濃くなると、人は元気を取り戻し作業に動き出す。時には森を駆けめぐり、別の日は野原を歩きまわる。ある時は高き山に登り、遠くを眺めて夢を追う。そして時々河や湖、海辺に出て生命の根源である水に親しむ。

人は大昔から、多少様式は違

っても自然の中で豊かに暮らし、自然を満喫し、自然と共生してきたのではなかったか。もちろん今の時代に当てはまらないことのほうが多いのだから、少なくとも季節の移ろいや、食物の旬、暑さ、寒さ、空の色や空気の変わり目などといったことに心を動かし、これに気付き、これを楽しみお豊かさを子どもたちへ持ち続けてほしいと切に思うところでもあります。

### 人として持たねばならぬ心情

大昔、中央アフリカで誕生した人の祖先は、一箇所にどまらず、それぞれが「群れ」となって世界中に旅立っていったのである。群れの中には、必ずといっていいほど、優秀なリーダーなるものが存在したといわれる。群れが外敵に襲われた時、

群れが飢えた場合、寒さに見舞

われた際、けがや病気が発生した、仲間同士のいざかみや意見の食い違いなどが時折起こったに違いない。

リーダーはいったいどうしたのだろう。どう回避し、困難をどう切り抜け、どう治めていったのだろう。

そこには、リーダー以外の男の役割、女の役割、子どもやるべき仕事があったし、全体の中で話し合い、そして作られた「約束」、つまり「掟」や「賞罰」もあつたに違いない。

ある時は、その掟が群れを守るために非情なものであったり、約束が厳しいものであったりもした。しかしリーダーは、群れを安全無事に目的地に誘導するために、群れ全体の保安や健康、平和の維持の努力をした。目配り、気配り、火を守ることもした。

群れを統率し、群れを引率し、

群れを安住の地に導くための掟や約束、あるいは注意事項など、群れのすべてに熟知させ、徹底させ、厳守させたいと思われる最低限の約束事とはなんだっただろう。群れ全体を危機から守るため、群れ全体の幸福を勝ち取るため、群れ全体の日々の生活を保障するための約束事とは。

私がここで述べるまでもなく、かつてリーダーが、かつての群れの人々が必死で守り抜いたものとは。

これをお読みいただけただけの人おひとりの心の中に、その答えがあつたと浮かび上がったのではないのでしょうか。そしてそれを子ども達にもしっかりと教え込んでいただきたい、と切に思うところです。

東川町地域子供会育成連絡協議会

会長 三原真琴